

平成 28 年度全国学力・学習状況調査の調査結果の分析

〔国語 A〕

33 問すべての設問で全国平均を上回り、平均正答率が 91.7%（全国平均 75.6%）、うち 5 問が全員正答という結果でした。特に「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う力」や、「漢字を適切に読み書きする力」、「目的に応じて資料を効果的に活用して話す力」が優れているという結果が出ました。全問正解者 8 人、1 問間違え者 24 人であり、基礎基本が十分に身につけていると言えます。毎日の授業を中心に、定期的実施される漢字テストや読書の時間などの取組の成果が現れています。

〔国語 B〕

国語 A と国語 B の正答率の差は全国平均では約 10 ポイントですが、本校はほぼ変わらない正答率 90.7%（全国平均 66.5%）であり、活用の問題においても十分な学力を有していると言えます。全問正解者 47 人、1 問間違え者 33 人でした。比較的正答率の低い「課題を設定し、目的に合った情報収集の方法を考える力」の育成のために、総合的な学習の時間において、課題を設定し、その課題の解決のための方法や手順を考える取組をより充実させていきたいと思えます。

〔数学 A〕

すべての問題において正答率が全国平均を大きく上回り、平均正答率が 92.4%（全国 62.2%）。国語同様に基礎的な学力が十分に身につけているといえます。全問正解者 11 人、1 問間違え者 19 人という結果でした。正答率が低かった問題は、「垂線の作図の方法について理解している」の 58.7%（全国 30.9%）でした。作図の手順は分かっているとしてもそれがどんな点の集合になっているかの理解が不足していると思われる。その他の問題は大幅に全国平均を超え、概ね良好な結果でした。

〔数学 B〕

平均正答率が 79.9%（全国 44.1%）と全国平均を大幅に上回っています。全問正解者は 3 人、1 問間違え者が 12 人でした。正答率が低かった問題は、「グラフの傾きが示すもの」を答える問題で 47.1%でした。第 2 学年での学習において重要事項でありながら、なかなか全生徒に定着されていない分野であると思われる。日頃の授業の中での復習を通して振り返らせ、定着を図っていききたいと思えます。

〔生徒質問紙〕

質問紙の結果には、本校生徒の規範意識の高さや、物事に前向きに取り組む意欲の高さが現れています。また、家で学校の宿題をしている生徒（している・どちらかといえばしているの合計）が 100%、学校で授業の予習・復習をしている生徒がそれぞれ 79.8%・75.0%で、学校の授業を大切にしている生徒が多いことが分かります。

平日と休日の学習時間を全国と比較すると、平日はほぼ全国平均と変わらず、休日は 3 時間以上やる生徒が 48.1%と多く、昨年同様の結果でした。遠方からの通学者が多いことや部活動に加入している生徒が多いため、休日に集中して学習する生徒が多いことが分かります。

さらに、総合的な学習の時間では、自分で課題をたてて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますかという問いに、70.2%の生徒が当てはまると回答しており（全国平均 27.5%）、意欲的に学習に取り組んでいる様子がうかがえます。

国語・数学ともに、解答を文章などで最後まで書こうと努力しましたかという問いに、最後まで書こうと努力したと解答した生徒はいずれも 90%を超えており、全国平均を大きく上回りました。